

《担当者名》真島 理恵

【概要】

この講義では、心理学研究において広く用いられている研究手法のひとつである質問紙法、および質問紙法のデータ分析においてよく用いられる多変量解析の方法について解説する。質問紙法の意義や実施の方法、結果の分析方法について解説し、研究目的に応じた質問紙の作成・分析を自ら行えるようになることを目的とする。

【学修目標】

質問紙法の目的・実施方法・結果の分析方法についての知識を身につけ、質問紙を作成できるようになる。
質問紙データの分析方法を理解し、多変量解析を行えるようになる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション、質問紙法とは	質問紙法の概要について理解する。	真島 理恵
2	質問紙法の基礎（1）	質問紙作成の基礎について理解する。	真島 理恵
3	質問紙法の基礎（2）	調査の実施方法について理解する。	真島 理恵
4	質問紙法の基礎（3）	尺度の種類と測定方法について理解する。	真島 理恵
5	質問紙法の基礎（4）	量的資料収集のための質問項目作成について理解する。	真島 理恵
6	質問紙作成実習（1）	テーマに沿ってデータを収集するための質問項目を作成・精選する。	真島 理恵
7	質問紙法の基礎（5）	コーディングとデータ入力について理解する。	真島 理恵
8	質問紙作成実習（2）	データ入力課題に取り組む。他の受講者が作成した調査の質問項目に回答する。	真島 理恵
9	尺度作成のための分析（1）	因子分析とは何か、因子分析で用いる用語、因子分析における注意点について理解する。	真島 理恵
10	尺度作成のための分析（2）	因子分析の手順について理解する。	真島 理恵
11	尺度作成のための分析（3）	Rコマンダーを用いた因子分析の練習問題に取り組み、因子分析の方法について理解する。	真島 理恵
12	尺度作成のための分析（4）	質問紙作成実習で収集したデータを用いて因子分析を行い、分析結果をレポートにまとめて提出する。	真島 理恵
13	回帰分析（1）	単回帰分析について理解する。	真島 理恵
14	回帰分析（2）	重回帰分析について理解する。	真島 理恵
15	まとめ	授業のふりかえりとまとめ	真島 理恵

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（約60％）、及び授業内で課す課題（約40％）の成績で評価する。また、授業中に実施する小テスト（面接授業で実施の場合のみ）の成績を加点対象とする可能性がある。授業の妨げとなる受講態度は減点対象とする。

【教科書】

なし。資料を配布する。

【参考書】

荒木 孝治 RとRコマンダーではじめる多変量解析 日科技連出版社（2007）
鎌原雅彦・大野木裕明・宮下一博・中沢潤 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房（1998）
小塩真司・西口利文（編） 質問紙調査の手順（心理学基礎演習） ナカニシヤ出版（2007）
松尾 太加志・中村 知靖 誰も教えてくれなかった因子分析：数式が絶対に出てこない因子分析入門 北大路書房（2002）
浦上 昌則・脇田 貴文 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方 東京図書（2008）

【備考】

各回の授業の実施方法は実施前に周知する（状況に応じ、面接授業のみ、遠隔授業のみの実施とする可能性があり得る）。

適宜、コンピューターを用いて質問紙作成やデータ処理の実習を授業中に行うため、事前に指示された回には十分に充電済みのコンピューターを持参すること。

すべての回に出席することを前提に講義を進める。授業を欠席した場合には、各自の責任において、配布資料や課題内容等を確認し、必要な対応をとること。

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムを使用するため、様々な研究への参加・協力に応じて、5%を上限として最終評価への加点が行われる可能性がある（詳細については初回講義にて説明）。

【学修の準備】

前回の講義資料を精読し、内容を十分に理解しておくこと。「資料を見ずに内容を他者に説明できる」ことを目標に復習を繰り返すこと。（80分）

授業内で課される課題を指定された期日までに行い、必要に応じて提出する（50分）。一部、授業外で次週までの宿題として実施する（30分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- ・ 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
- ・ 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。